

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文、林宏二	開講期	4年後期
		単位数	1

【授業の主題】

精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術などを体得することを目指す。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域の特性を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション、実習の振り返り①
- 第 2回 実習の振り返り②
- 第 3回 実習報告書作成①
- 第 4回 実習報告書作成②
- 第 5回 実習発表準備①～プレゼンテーション資料作成～
- 第 6回 実習発表準備②～プレゼンテーション資料作成～
- 第 7回 実習発表準備③～プレゼンテーション資料作成～
- 第 8回 実習発表準備④～プレゼンテーション資料作成～
- 第 9回 実習発表準備⑤～プレゼンテーション資料作成～
- 第 10回 実習報告会①
- 第 11回 実習報告会②
- 第 12回 実習報告会③
- 第 13回 実習報告会④
- 第 14回 実習報告会⑤
- 第 15回 実習報告会⑥

【授業実施方法】

演習（個人・グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置付けや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習

【教科書等】

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW 実習ハンドブック—実習生のための手引き』へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（実習報告書など）50%、実習報告会発表（プレゼンテーション資料）50%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習を効果的に進められるよう、これまでの学習や生活上の経験を活かしながら積極的・主体的に取り組んでください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。